



ミネベア株式会社決算説明会
2005年3月期中間期決算

2004 (平成16)年 11月12日

代表取締役 社長執行役員 山本 次男

2005年3月期中間期 連結業績

(百万円)	2004/3期	2005/3期	伸び率 前年同期比	上期計画	
	上期	上期		期初計画	計画比
売上高	133,741	146,751	+9.7%	144,400	101.6%
営業利益	9,467	5,468	-42.2%	8,400	65.1%
経常利益	7,558	3,885	-48.6%	6,300	61.7%
税引前利益	6,299	3,391	-46.2%	5,700	59.5%
純利益	2,726	1,095	-59.8%	3,000	36.5%

上期はスピンドルモーター、MMMC、キーボードの3事業の損益悪化により、減益

2004年11月12日

1



2005年3月期中間期の売上高は、ミネベア・松下モータ合弁事業の設立、新規分野の事業拡大や、需要増と拡販による物量増加により、販売単価の下落の影響も吸収して前年度上期に対して拡大しました。

一方、営業利益は、課題の3事業となっているHDDスピンドルモーター、ミネベア・松下モータ合弁事業、キーボード事業の損益悪化により前年度上期に対して大幅な減益となりました。

第2四半期 業績

(百万円)	2004/3期	----- 2005/3期 -----		2Q 伸び率	
	2Q	1Q	2Q	前年同期比	前四半期比
売上高	67,252	71,324	75,427	+12.2%	+5.8%
営業利益	5,208	2,802	2,666	-48.8%	-4.9%
経常利益	4,273	1,982	1,903	-55.5%	-4.0%
税引前利益	4,122	1,937	1,454	-64.7%	-24.9%
純利益	2,305	208	887	-61.5%	+326.4%

MMMCロイヤリティ計上により減益だが、2Qの利益は実質1Qより改善

2004年11月12日

2

 Minebea

第2四半期の業績は上記の通りです。

中間期業績特殊要因

ミネベア・松下モータ合弁事業(MMMC)

期初以降の事業実績と期初事業計画に大幅な乖離

差異の要因： 移管製品販売単価の急落及び需要落ち込み。
統合費用の増加。

⇒第1四半期中からMMMCの両親会社に対するロイヤリティ支払いを含む事業全般の見直しに着手。現在、検討を引き続き行っているが、まだ結論に達していないため、当初契約どおりのロイヤリティを中間期に計上。ミネベア連結損益への影響額はマイナス13億円。下期業績の修正予想は、影響額マイナス14億円を含む。ただし、当期純利益への影響は当社持分60%分のみ。

2004年11月12日

3



第2四半期にミネベア・松下モータ事業のロイヤリティ支払いの当社連結への影響マイナス13億円がありました。ミネベア・松下モータ合弁事業の実績は、期初計画に対して大きく乖離して推移してきました。第1四半期からミネベア、松下電器産業に対するロイヤリティ支払いを含む事業全般の見直しを行っています。

中間期 セグメント別収益

(百万円)	— 2004/3期 —		2005/3期	伸び率 前年同期比
	上期	下期	上期	
〔売上高〕				
機械加工品	55,665	56,027	57,350	+3.0%
ベアリング関連製品	47,128	47,476	49,153	+4.3%
その他機械加工品	8,538	8,551	8,197	-4.0%
電子機器	78,076	78,805	89,400	+14.5%
回転機器	43,642	43,099	54,061	+23.9%
その他電子機器	34,435	35,706	35,340	+2.6%
合計	133,741	134,833	146,751	+9.7%
〔営業利益〕				
機械加工品	9,178	10,327	10,478	+14.2%
電子機器	289	△ 1,689	△ 5,010	—
合計	9,467	8,637	5,468	-42.2%

上期売上高内訳

(億円)	期初 計画	実績 対計画
ベアリング関連製品	482.0	→ 102%
その他機械加工品	82.0	→ 100%
回転機器	589.5	→ 92%
その他電子機器	290.5	→ 122%

上期営業利益内訳

(億円)	期初 計画	8月時 見込	実績
機械加工品	97	→ 約104	→ 105
電子機器	△13	→ △33	→ △50
3事業	△14	→ △38	→ △59
3事業以外	1	→ 5	→ 9
合計	84	→ 約71	→ 55

電子機器3事業実績はロイヤリティ
支払い13億円を含む

2004年11月12日

4



ベアリング関連製品のうちボールベアリングとロッドエンド&スフェリカルベアリングが好調でした。

回転機器の売上高はミネベア・松下モータ事業開始に伴う上乘せがありました。スピンドルモーターと振動モーター及びブラシ付DCモーターが不調でした。

その他電子機器の売上高は、前期末に撤退した電源等事業の売上高53億円がなくなった影響がありましたが、キーボード、ライティングデバイス、計測機器の売上が前上期比伸びました。

機械加工品の営業利益はボールベアリングとロッドエンド&スフェリカルベアリングの利益向上で前上期より大幅に増益、期初計画も上回りました。

電子機器では、3事業以外は計画を上回り、利益が伸びましたが、3事業の損失が大きく悪化しました。

第2四半期 セグメント別収益

(百万円)	----- 2004/3期 -----				--- 2005/3期 ---		2Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前年同期比	前四半期比
〔売上高〕								
機械加工品	28,606	27,059	27,434	28,593	28,256	29,094	+7.5%	+3.0%
ベアリング関連製品	23,959	23,169	23,324	24,152	24,247	24,906	+7.5%	+2.7%
その他機械加工品	4,646	3,892	4,109	4,442	4,009	4,188	+7.6%	+4.5%
電子機器	37,883	40,193	41,294	37,511	43,067	46,333	+15.3%	+7.6%
回転機器	21,458	22,184	22,209	20,890	26,852	27,209	+22.7%	+1.3%
その他電子機器	16,424	18,011	19,084	16,622	16,216	19,124	+6.2%	+17.9%
合計	66,489	67,252	68,728	66,105	71,324	75,427	+12.2%	+5.8%
〔営業利益〕								
機械加工品	4,908	4,270	5,035	5,292	5,082	5,396	+26.4%	+6.2%
電子機器	△648	937	△503	△1,186	△2,279	△2,731	—	—
合計	4,259	5,208	4,531	4,106	2,802	2,666	-48.8%	-4.9%

2004年11月12日

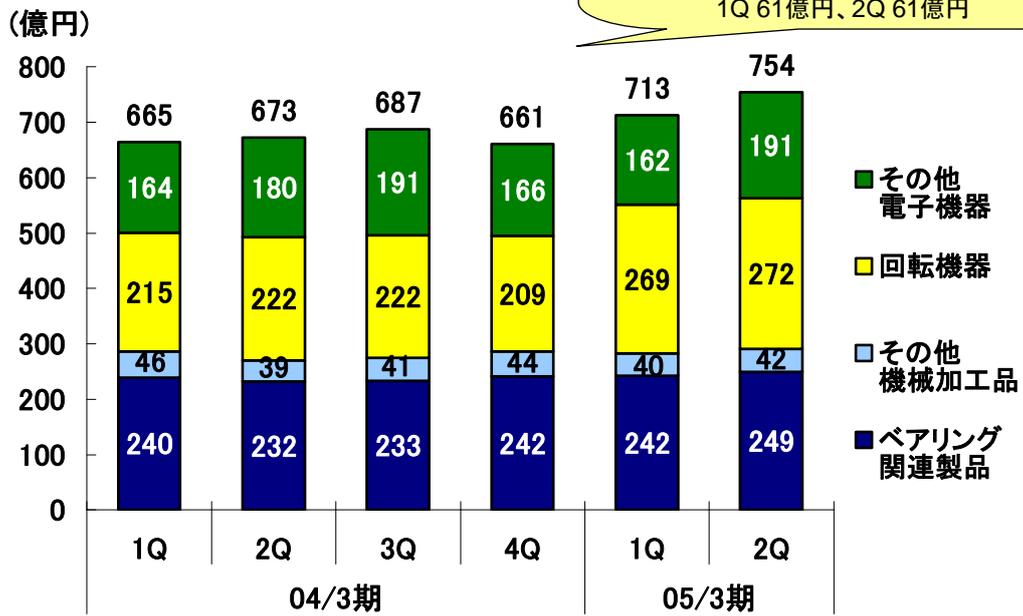
5



四半期毎のセグメント別収益です。

セグメント別売上高推移

各部門においてビジネスが拡大
 ミネベア・松下モータ合併事業の設立に伴う
 回転機器部門売上高への上乗せ
 1Q 61億円、2Q 61億円



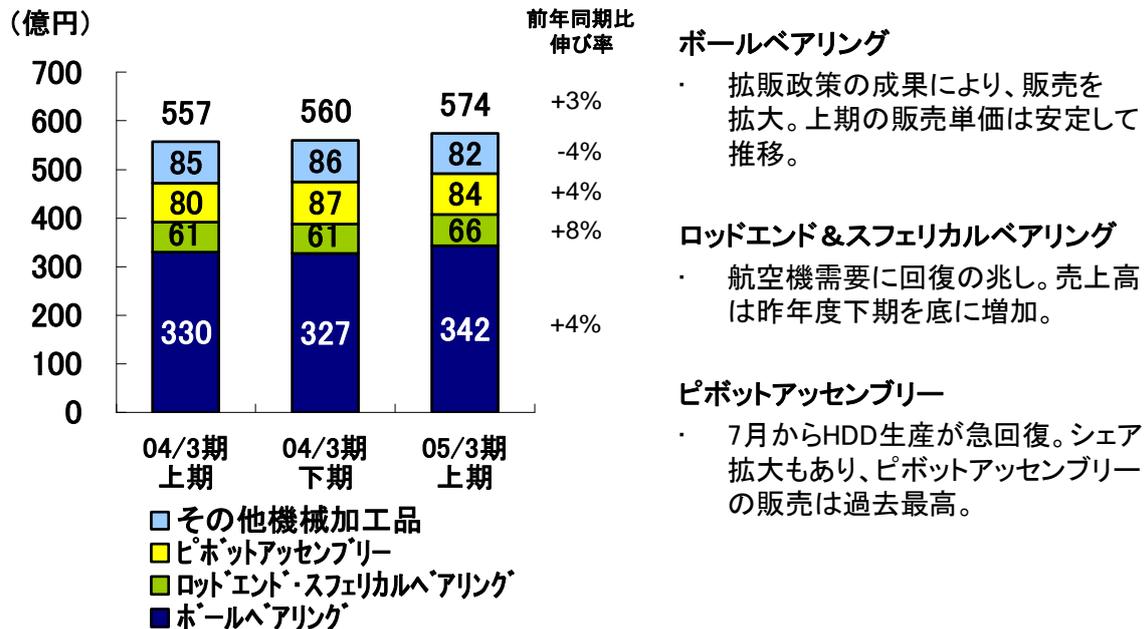
2004年11月12日

6



全般的にビジネスが拡大し、売上高は順調に伸びています。

機械加工品セグメント 売上高



ボールベアリング

- ・ 拡販政策の成果により、販売を拡大。上期の販売単価は安定して推移。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング

- ・ 航空機需要に回復の兆し。売上高は昨年度下期を底に増加。

ピボットアッセンブリー

- ・ 7月からHDD生産が急回復。シェア拡大もあり、ピボットアッセンブリーの販売は過去最高。

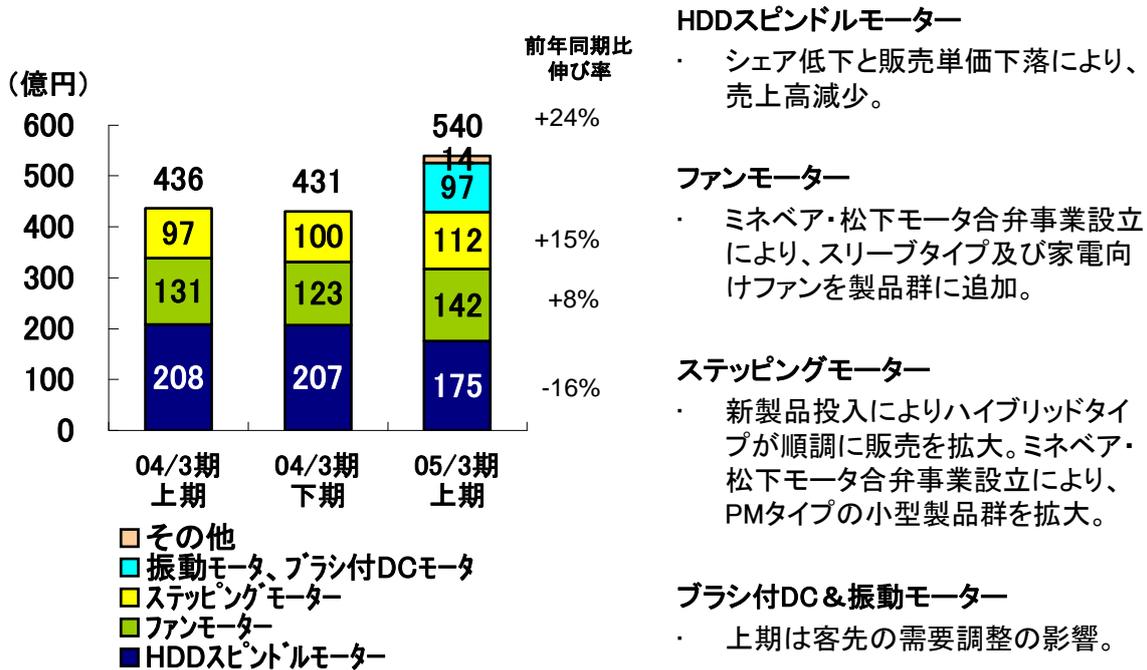
2004年11月12日

7



機械加工品セグメントでは、ボールベアリングを中心に順調に推移しています。

電子機器セグメント回転機器 売上高



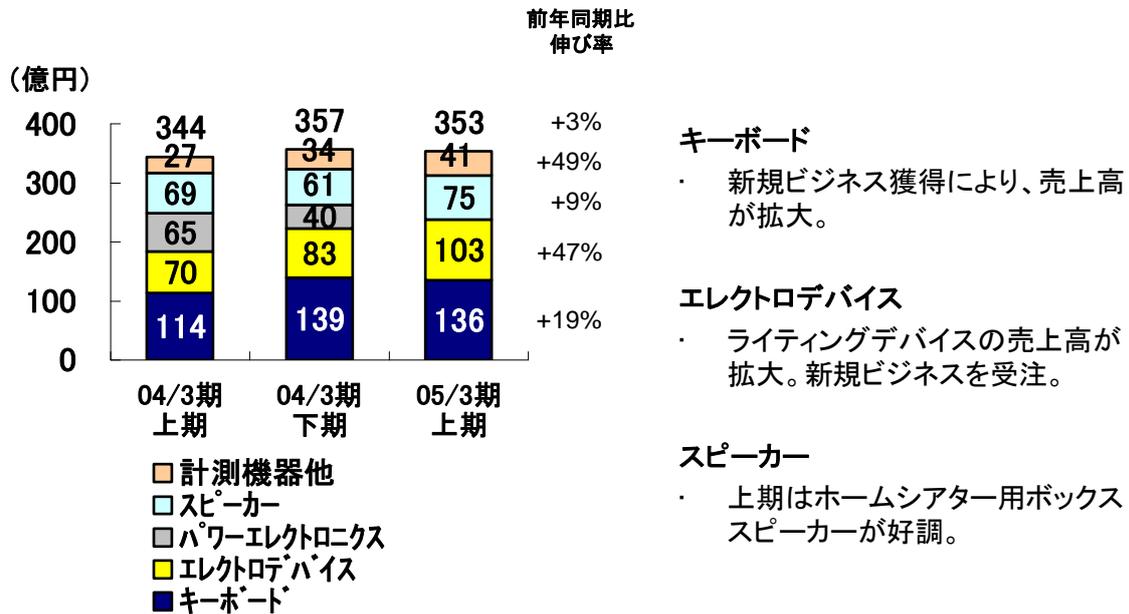
2004年11月12日

8



回転機器の売上高はミネベア・松下モータ事業の製品が加わり、前年度上期に対し大幅増となりました。

電子機器セグメントその他電子機器 売上高



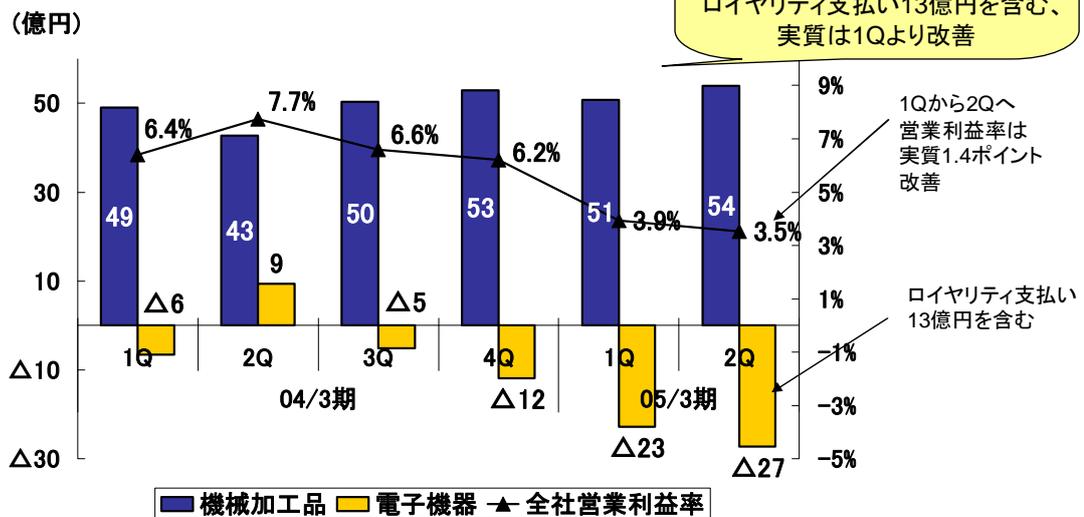
2004年11月12日

9



その他電子機器ではキーボード、ライティングデバイス、計測機器が前上期に対して大幅な増収となりました。

セグメント別営業利益推移



営業利益率	04/3期				05/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
機械加工品	17.2%	15.8%	18.4%	18.5%	18.0%	18.5%
電子機器	-1.7%	2.3%	-1.2%	-3.2%	-5.3%	-5.9%
全社	6.4%	7.7%	6.6%	6.2%	3.9%	3.5%

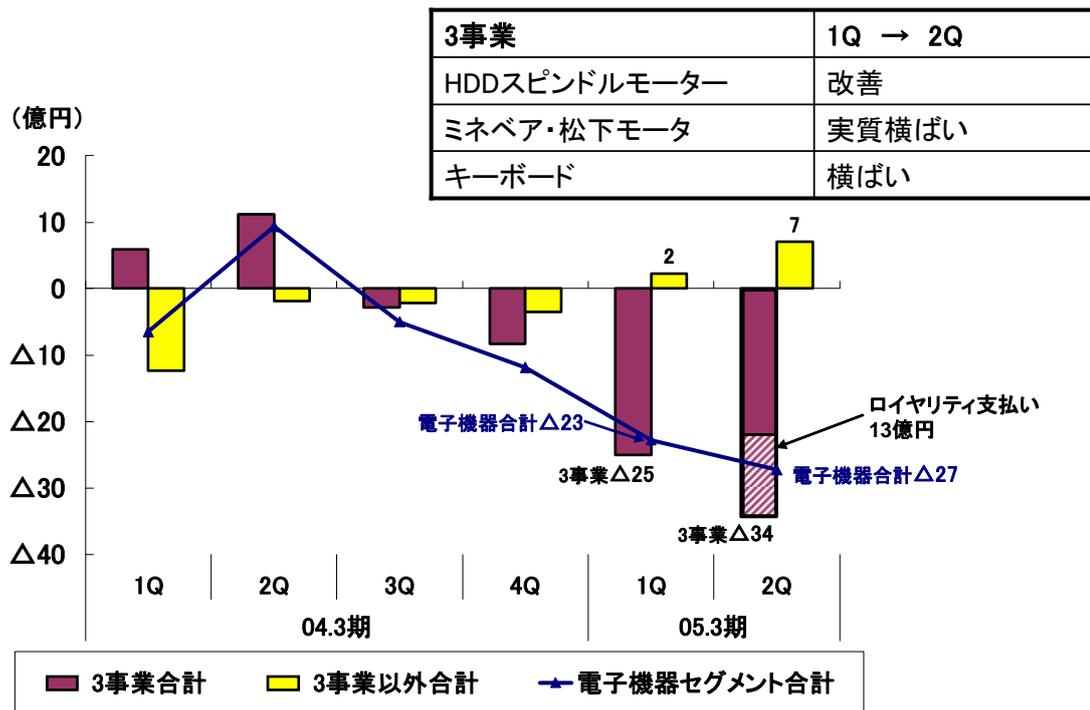
2004年11月12日

10

Minebea

機械加工品セグメントの営業利益は第2四半期も好調に推移しました。ボールベアリングの収益性がさらに向上し、ロッドエンド&スフェリカルベアリングが回復、ピボットアッセンブリーでは生産販売数量の大幅増とコスト低減が利益を押し上げました。その結果、機械加工品セグメントの第2四半期の営業利益率は18.5%にまで上昇しました。下期はさらなる上昇を見込みます。

電子機器セグメント営業損益内訳



2004年11月12日

11



電子機器セグメントのうち3事業以外の営業利益は、電源等を撤退したことによる改善、ライティングデバイス、計測機器、エレクトロデバイス、スピーカーが貢献し、前年度上期に比べ大幅に改善しました。

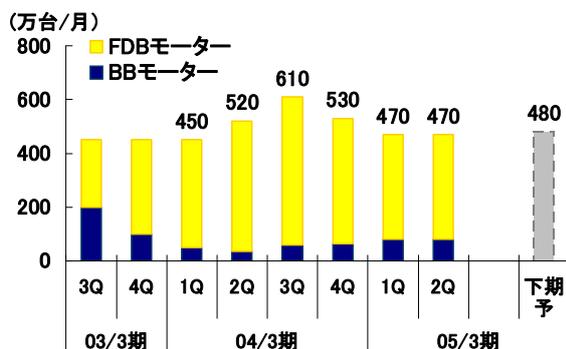
3事業のうち第2四半期はHDDスピンドルモーターの損益が改善しました。

HDDスピンドルモーター

◆ 新製品承認活動

ROF 客先にて評価中。
2.5" FDB 客先にて評価中。

HDDスピンドルモーター販売数量推移・見込み



日本電産株式会社と特許訴訟で和解が成立

- 当社は日本と米国で係属中の二つの訴訟を取り下げ。両社が所有する特許権等につきクロスライセンス契約を締結予定。
- 裁判に要する時間や負担を軽減し、新製品開発と販売活動の面でメリット大と判断。
- 日本電産との他製品の取引増加の可能性。

2004年11月12日

12



HDDスピンドルモーター事業では、年初から取り組んできましたコスト低減施策一歩留まりの改善、人件費の削減一が第2四半期に成果として表れてきました。

新型モーターの量産開始は、HDDメーカーのモデル切り換えのタイミングで来期初めにずれこむ可能性がありますが、今日まで2.5インチを含め評価試験は順調に進んでいます。

10月25日に発表した通り日本電産株式会社と特許訴訟で和解が成立しました。総合的に見て裁判に要する時間的、経済的及び人的資源をより前向きなビジネスに活用できること、また和解に伴いクロスライセンス契約を締結する事で、モーターの設計を自由に行えることから和解することといたしました。

ミネベア・松下モータ合弁事業

黒字化を目指して構造改革を実施

◆ 製造統合

- 生産移管の推進、生産拠点機能の見直し
- 源泉部品生産及び外注生産の体制見直し
- 生産性向上を中心に合理化の徹底実施

◆ 拡販 NMB-MAT

- ファンのシェア引き上げ、スリーブタイプ及び家電向けの拡販
- ハイブリッド及びPM新シリーズの販売拡大
- 振動モーター及びブラシ付DCモーターの拡販

◆ ロイヤリティを含めた事業の見直し

- 現在、検討中

2004年11月12日

13

 Minebea

ミネベア・松下モータ合弁事業の製造統合は、今期末までに目処をつける予定です。

ファンモーターの組立及び部品の上海への移管を完了させ、PMモーターの部品製造をタイへ移管します。また、ブラシ付及び振動モーターの完成品及び部品の適地生産のための拠点再編を進めています。部品生産は、なるべく社内に取り込む方針です。同時に、充実した製品群の拡販にも取り組みます。

キーボード

上期

◆ 生産販売数量を拡大。

- デスク向け顧客層を拡大。上期の販売数量は前年同期比2割増。
- ノート向けビジネスを拡大。上期の販売数量は前年同期比4割増。

◆ 上海への生産移管を実施。

- 9月までにデスクの3/4を移管完了。
- 受注増加による二重構造の長期化。

下期

◆ 拡販を継続。

- 下期も、デスクトップ及びノートの新規ビジネスの開拓を進める。

◆ SSTの生産性向上に注力。

- 早期の移管完了へ向けて。
- 製造原価の低減。
- 原材料価格高騰への対応。

2004年11月12日

14



上期のキーボード事業の販売は好調です。技術力を含めた総合力が発揮できるようになり、顧客層を拡大し、ノート向けの新規アイテムも受注しました。しかし、タイミングとしては非常に悪い結果となってしまいました。その結果、SSTで生産効率の改善の遅れが生じ、また、タイと上海の二本立ての状況に終止符を打つことができていません。

しかし、SSTの10月の生産は180万台に達し、11月は200万台を超える予定です。早期に移管を完了できるよう取り組んでいます。

現在、コスト高になっている要因の一つにレジン等原材料価格の高騰があります。販売価格の値上げを実施する時期に来ていると考え模索しています。

下期の3事業損益見込み

営業損益

(億円)	上期	下期	通期
3事業合計	△59	△41	△100
3事業以外	9	11	20
電子機器合計	△50	△30	△80

3事業内訳

上期 → 下期

HDDスピンドルモーター	10億円改善
ミネベア松下モータ	5億円改善
キーボード	3億円改善

2004年11月12日

15



下期は、3事業で18億円の利益改善を目標とします。

HDDスピンドルモーターで約10億円、原価低減により達成します。

ミネベア・松下モータ事業では、今期は生産移管や構造改革を行っているため、大幅な利益改善は見込めませんが、下期は各製品の原価低減と売上増により5億円の改善を予定しています。

キーボードにつきましては、生産移管が続くことと、原材料のレジンの価格高騰の影響により、下期は若干の改善に止まる予定です。

ボールベアリング

◆ 生産販売を拡大

上期の販売数量は、前年同期比17%増。社内使用も含めた販売は前年同期比15%増。下期は月1億8,000万個へ。

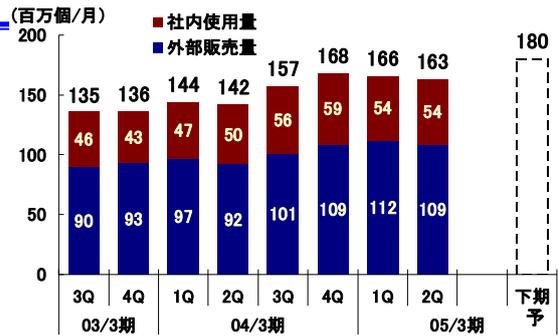
◆ 原価低減を推進

原価低減施策を継続。

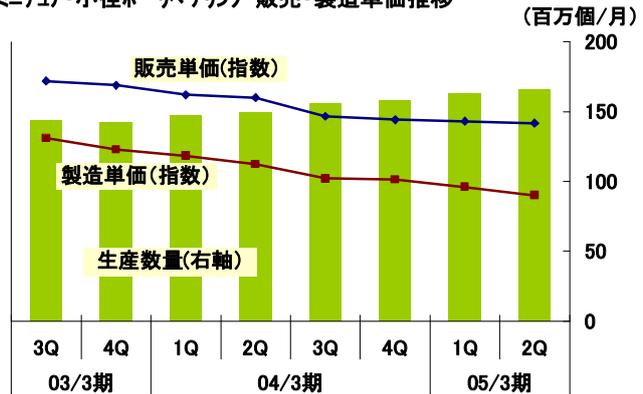
ピボットアッセンブリー増産

- ピボットアッセンブリー用のボールベアリングを増産。小型HDD用の販売が急拡大。
- 原材料価格高騰の影響を吸収して、収益性改善。

ミニチュア・小径ボールベアリング 販売数量推移



ミニチュア・小径ボールベアリング 販売・製造単価推移



2004年11月12日

16



主力製品のボールベアリングは、第2四半期、当初予想を上回る外販数量になりました。下期は従来計画通り月1億8,000万個を目指します。

第2四半期 用途別売上高・地域別売上高

用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器(OA)	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	10.5%	8.2%	10.4%	15.5%	38.0%	4.9%	12.5%	100.0%
前四半期比伸び率(1Q比)	+9.7%	+4.7%	-11.6%	+1.3%	+11.5%	-0.2%	+12.7%	+5.8%
前年同期比伸び率(前年度2Q比)	+53.9%	+6.4%	+19.6%	+62.4%	-6.7%	-1.3%	+17.1%	+12.2%

地域別売上高

	日本	アジア(除日本)	北米・南米	欧州	合計
売上高比率	26.6%	47.1%	16.8%	9.5%	100.0%
前四半期比伸び率(1Q比)	+3.5%	+5.3%	+15.4%	-1.0%	+5.8%
前年同期比伸び率(前年度2Q比)	+22.4%	+12.4%	+10.8%	-8.5%	+12.2%

中華圏売上高は現地通貨ベースで前年比30%増、前四半期比5%増。

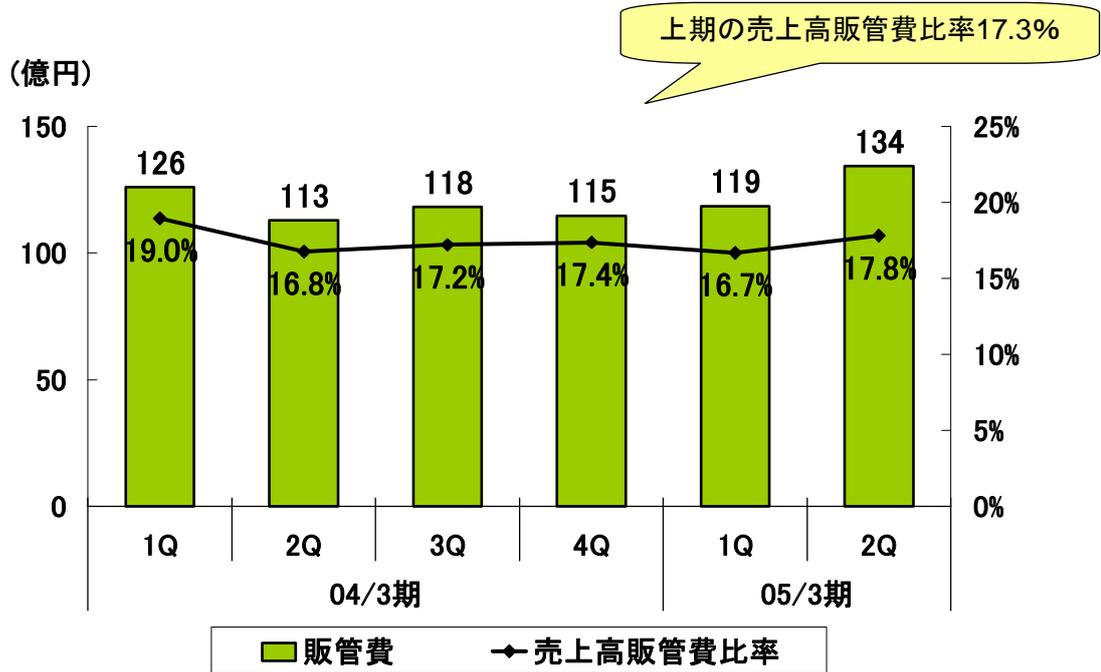
2004年11月12日

17

 Minebea

用途別売上高では、主にボールベアリングの販売拡大とミネベア・松下モータ合併事業の上乗せにより、昨年と比較して自動車、家電とOAが大幅に伸びました。

販管費



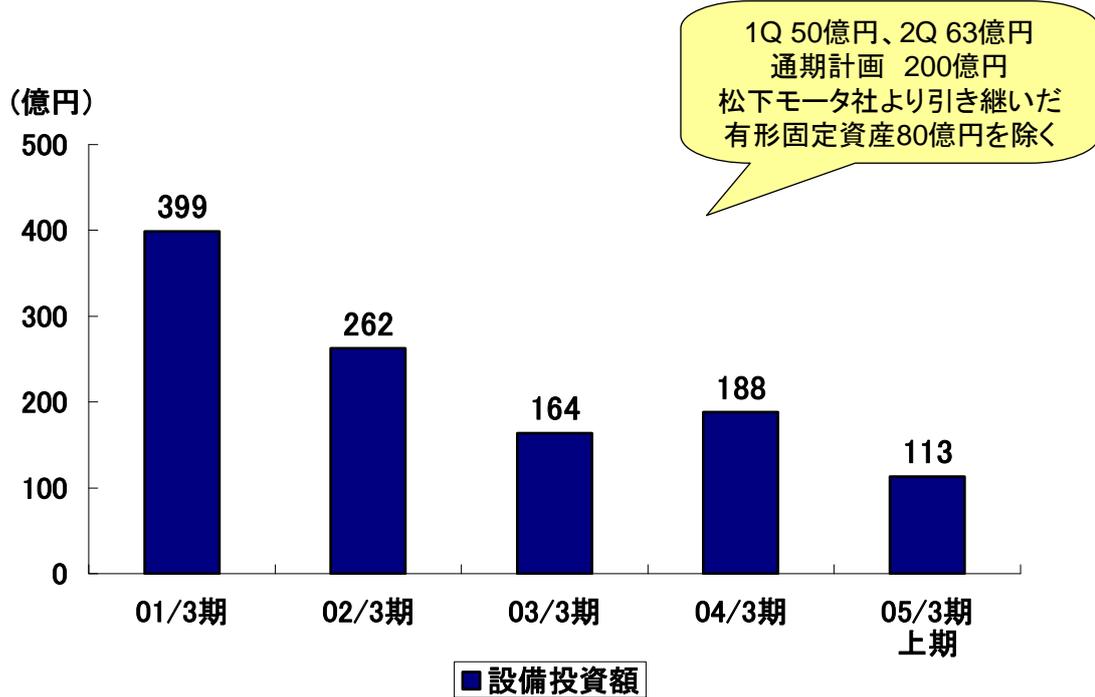
2004年11月12日

18



販管費の削減を進めていますが、ロイヤリティ支払いを計上したために上期の対売上高販管費比率は17.3%となりました。

設備投資額



2004年11月12日

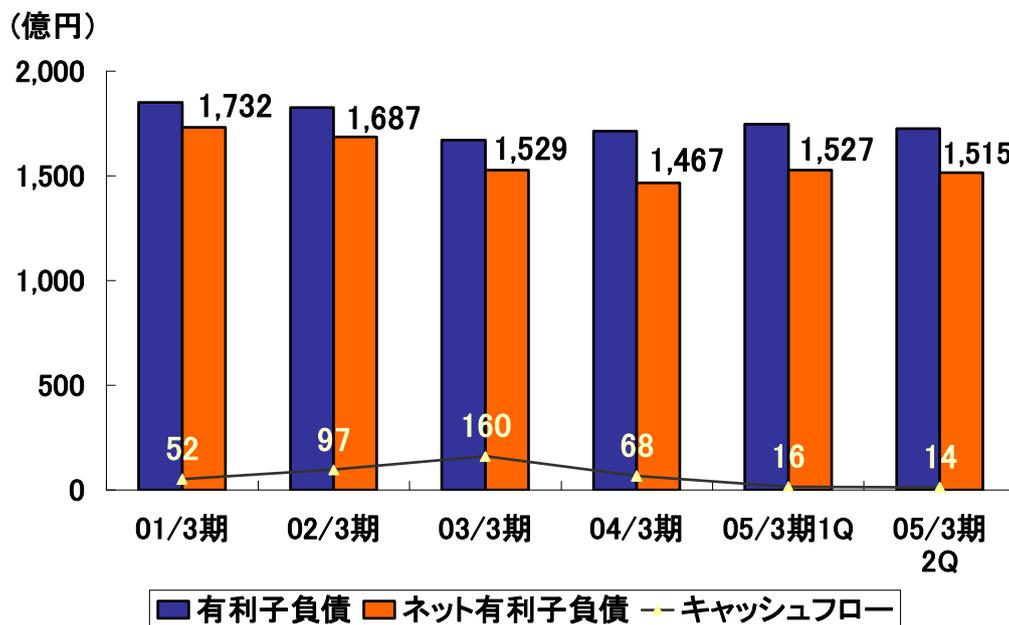
19

 Minebea

第2四半期はタイのロップリエ場にボールの新工場を建設しました。

通期では主にベアリング、キーボード、ミネベア・松下モータ事業関連で、200億円の設備投資を予定しています。

有利子負債



2004年11月12日

20



ミネベア・松下モータ合弁事業の設立に伴い第1四半期に有利子負債が増加しましたが、第2四半期は12億円減少しました。

2005年3月期通期 業績予想

(百万円)	2004/3期		2005/3期		通期	通期計画	
	通期	上期実績	下期予想	通期予想	前年比伸び率	従来予想	従来比
売上高	268,574	146,751	153,249	300,000	+11.7%	300,000	100.0%
営業利益	18,104	5,468	8,532	14,000	-22.7%	20,000	70.0%
経常利益	13,800	3,885	6,115	10,000	-27.5%	15,500	64.5%
税引前利益	12,958	3,391	5,609	9,000	-30.5%	14,500	62.1%
純利益	6,019	1,095	3,905	5,000	-16.9%	9,000	55.6%

2004年11月12日

21



下期は営業利益で、第3四半期に43億円、第4四半期に42億円を予定しています。

通期 セグメント別収益予想

(百万円)	2004/3期		2005/3期		通期 前年比 伸び率	通期計画	
	通期	上期実績	下期予想	通期予想		従来予想	従来比
〔売上高〕							
機械加工品	111,692	57,350	60,650	118,000	+5.6%	114,000	103.5%
ベアリング関連製品	94,604	49,153	51,047	100,200	+5.9%	96,800	103.5%
その他機械加工品	17,089	8,197	9,603	17,800	+4.2%	17,200	103.5%

電子機器	156,881	89,400	92,600	182,000	+16.0%	186,000	97.8%
回転機器	86,741	54,061	56,239	110,300	+27.2%	123,600	89.2%
その他電子機器	70,141	35,340	36,360	71,700	+2.2%	62,400	114.9%
合計	268,574	146,751	153,249	300,000	+11.7%	300,000	100.0%

〔営業利益〕							
機械加工品	19,505	10,478	11,522	22,000	+12.8%	19,500	112.8%
電子機器	△1,400	△5,010	△2,990	△8,000	-	500	-
合計	18,104	5,468	8,532	14,000	-22.7%	20,000	70.0%

2004年11月12日

22



セグメント毎の通期・下期の計画です。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。